

# グリーンブルーペーパー

2006年2月

## ● 目 次 ●

2006年2月号 -グリーンブルーってどんな会社？-

新グリーンブルーペーパー宣言 チームA 副編集長 川村 功一

グリーンブルーってどんな会社？ チームA 編集員一同

新グリーンブルーペーパー宣言 川村 功一(環境リスク対策ラボ、GBP 編集委員会チームA 副編集長)

今年よりグリーンブルーペーパー(以下 GBP)の編集委員が一新され、チームA、Bの2チーム編成となりました。それぞれが隔月に報告することにより、特色の違いが得られ、方向性の広がりを感じていただければと思います。

チームAは、今年6回の掲載において「環境問題に対する取り組み」をテーマに掲げ、種々の環境問題を日々の実務に沿って紹介していきたいと考えています。編集員とともに「私たちの納得する仕事とは」という答えを探求しながら活動し、それを感じていただければ嬉しい限りです。

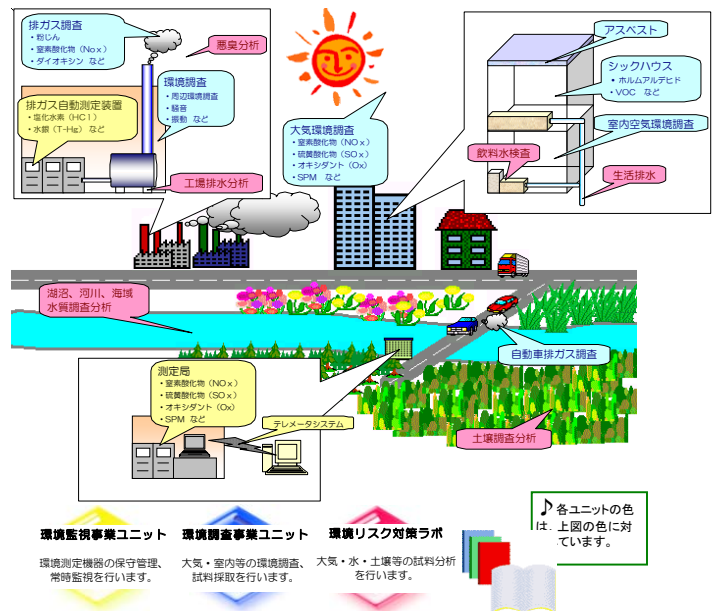


環境リスク対策ラボ  
生活環境試験サブユニット  
川村 功一  
LEVEL: 勤続4年  
HP: 知識も技術も広く深く  
MP: 集中力抜群。切れたら…(笑)  
特殊能力: 社内フットサルチームのエース(得点王)

## グリーンブルーってどんな会社？

グリーンブルーは、地球の緑(グリーン)、空と海の青(ブルー)を守るために環境モニタリング事業を推進している会社です。「地球環境を守ることによって人々に役立つこと」、「環境保全に必要となる価値ある情報を提供すること」を企業使命として活動しています。

右図のように、私たちの生活する場所では多くの環境問題が生じています。環境や排出基準に適合しているか、問題の原因となっている物質は何か等を解決するためには、環境の質を計測し、評価する必要があります。また、無数に存在する化学物質を計測するには、適切な計測技術と信頼できる精度を持ち合わせていることが肝要です。当社は、この**説明責任**を営業機会と捉えており、ISO17025などの資格取得、付加価値のあるデータ提供等を積極的に行っています。



グリーンブルーでは、人間活動を取りまく様々な環境に対し、「環境監視事業ユニット」(測定機器のプロ)、「環境調査事業ユニット」(環境調査のプロ)、「環境リスク対策ラボ」(測定分析のプロ)の、生産3部門が役割と責任を持って業務に当たっています。「お客様に満足して頂く製品を提供し、環境保全に貢献する。」を品質方針に、計測したデータを有意義に活用していただけるよう、誠意を持って仕事に取り組んでいます。

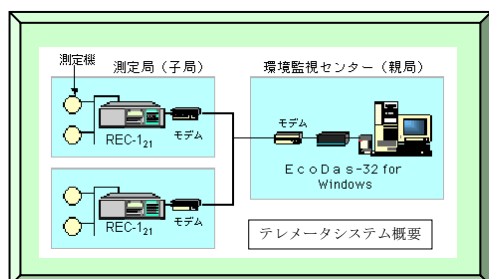
## 生産部門紹介－環境監視事業ユニット

環境監視事業ユニットは、当社の業務サービスにおける三本柱の一つであるモニタリングサービスを担当しています。東京、神奈川、茨城の3拠点を中心に、関東一円にわたり一般環境における大気や水質の常時監視測定局の維持管理、清掃工場や発電所などの発生源施設における排ガス、排水等の常時監視用測定機器の保守業務を行っています。さらには、それらのデータを収集・処理する環境テレメータをはじめとする環境システム開発に至るまで、環境モニタリングをトータルにサポートし、ユーザーの資産管理の一助を担うべく活動しています。

維持管理として扱う測定機器は、メーカーや機種を問わず、通常の保守点検からオーバーホール、機器の校正まで行っております。参考までに、日頃、私たちが取り扱っている自動測定器を右図に示しました。

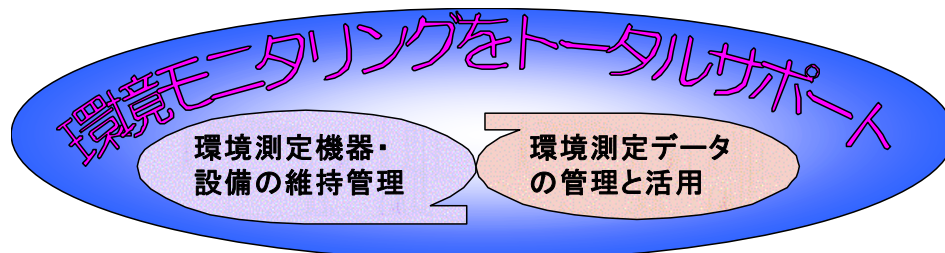
特に機器の校正に関しては、国の計量資格であるJCSSの認定を受けています。大気汚染常時監視の乾式測定器に付属している校正用希釈装置を、国家標準にトレーサブルな形で管理する気体微小流量の認定校正事業者として、環境測定業界で初めて認定されました。

([http://www.greenblue.co.jp/services/mon\\_kosei\\_01.html](http://www.greenblue.co.jp/services/mon_kosei_01.html))



環境常時監視テレメータシステム「EcoDas-32 for Windows」は、全国に約80カ所もの納品実績を持っています。環境に精通したスタッフ(「環境計量士」の資格者を含む)が開発に携わり、環境データベースの構築やホームページへの環境情報公開など、ユーザーの様々な要望に応じてカスタマイズすることが可能です。テレメータ子局装置「REC-121」は、スリムタイプのパソコンと同じくらいのコンパクトサイズながら、環境テレメータ子局装置として必要となるすべての機能を有しているだけでなく、通信回線異常時にはPCカードでデータ回収できるなど、現場を知り尽くした当社ならではの細やかな配慮が凝縮されています。

当社のモニタリングサービスは、過去30年余の歴史があります。ユーザーとメーカーの架け橋となり、適正な保守技術に校正サービス、テレメータシステムを加え有意なモニタリングデータを提供していくことが私たちの仕事です。また、



近年の地球環境問題等を鑑み、常時監視測定局の消費電力管理を主体としたエネルギーマネジメントシステム(EpoKis: エポキス)の開発など新しい取り組みにも積極的にチャレンジしています。

## 生産部門紹介－環境調査事業ユニット

環境調査事業ユニットは、種々の環境問題の観測調査、試料採取、データ解析やコンサル業務を実施しています。観測調査には数日の短期の観測から、10年にもわたる連続観測をしている業務もあります。環境調査は、水、大気、土

### 東京保守第1サブユニット



佐藤 大介

LEVEL: 勤続0.5年

HP: 若さで勝負中。

MP: 笑顔で悩殺します

特殊能力: 作業服＝通勤着ですけど何か??

共著: 環境システムサブユニット

野中 精次

### 維持管理対象となる主な大気汚染自動測定器

- ・NOx計(湿式/乾式)
- ・SO2計(湿式/乾式)
- ・PM2.5 SPM計
- ・ホルムアルデヒド計
- ・交通量自動測定器
- ・気象観測装置(風向, 風速, 温度, 湿度, 日射量)
- ・酸性雨計/雨量計
- ・Ox計/O3計
- ・CO計
- ・SPM計
- ・HC計
- ・騒音計/振動計
- など


壤、騒音、臭気、振動とその対象は多岐にわたります。

環境調査の御依頼を受けた場合、測定機材を持って行きさえすればすぐに観測できる！という訳には行きません。観測するためには、調査地点(道路や民地)を借用するための交渉や、観測機材の準備(確保、動作確認、校正)が必要です。機材を動かすためには電気が必要ですので、仮設電柱を立てて電源を確保する必要もあります。

**調査第三サブユニット**

**松本 岳之**

LEVEL: 勤続 1.5 年  
 HP: 以外と？仕事は真面目  
 MP: ジャンボ。でもチョコレートが大嫌い  
 特殊能力: お笑いのことなら任せて下さい。自叙伝「笑いのつぼ」執筆中。



僕たちの仕事です！



**環境調査事業ユニットの主要業務**

- ・粒子状物質調査      ・有害大気汚染物質調査      ・室内空気汚染調査
- ・ダイオキシン類調査      ・大気汚染分野の環境アセスメント調査
- ・発生源排ガス検査      ・アスベスト調査      ・騒音、振動、交通量調査
- ・インベントリー調査、シミュレーション

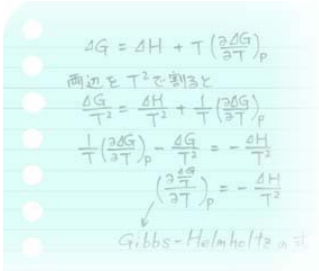
観測場所は、学校やオフィスビルや住宅といった屋内での観測、川や山、道路沿道や公園といった屋外での観測、時には車や船に乗っての観測もあります。フィールド調査では何が起こるか分かりません。安全対策や風雨などの気象対策等どんな状況にも臨機応変に対応できる対策・準備が必要となります。また、社員自身としては「トラブルは起こさないものではなく、未然に防ぐもの」との観点から、現場開始前に皆でKY-TBMを行い万全に備えています。

当社の保有機器を下図に示しました。以前は試料採取⇒分析の流れが大半でしたが、現在では現場にて対象物質を選択的に定量観測することが可能となってきています。これにより、観測に対する時間的尺度がより細かくなり、取り扱うデータ量が増えることを意味します。試料採取等の既存技術の他に、データ処理、解析する技術が必要になってきています。お客様のニーズを理解し、目的にあった環境調査のデザイン、提案をしていくことが、私たちの目標です。



**グリーンブルー所有の観測機器**

- ◇HV (浮遊粒子状物質を一括採取)      ◇ANHV
- ◇AN (PM2.1 以下粒子の分級採取)      ◇LPI (AN 以下の粒子を分級採取)
- ◇NOx 計      ◇CO 計      ◇CO2 計
- ◇SOx 計      ◇THC 計      ◇アンモニア計
- ◇SPM 計      ◇風向・風速計      ◇TEI
- ◇TEOM (PM2.5 の質量変化を直接リアルタイムに計測)
- ◇SMPS (広範囲エアロゾル粒子を高分解能計測)
- ◇サルフェイトモニター (PM2.5 中の硫酸塩を瞬時に定量測定)
- ◇ナイトレイトモニター (PM2.5 中の硝酸塩を瞬時に定量測定)
- ◇カーボンモニター (SPM 中の EC、OC を自動的、継続的に計測)
- ◇温湿度計      ◇各種ポンプ      ◇各種ロガー      …などなど



いろんな機材を駆使して観測しています！



**生産部門紹介ー環境リスク対策ラボ**


環境リスク対策ラボは、環境分析を担っています。生産 3 部門において、一番法律と数値に厳しいユニットと言えます。一言で“環境分析”といっても、扱う対象は水・空気・土壌など様々で、また分析を行う目的も様々です。

環境リスク対策ラボは、お世辞にも大きなラボとは言えません。そのため、少人数精鋭の体制となっています。分析可能な項目は約 500 アイテム程です。

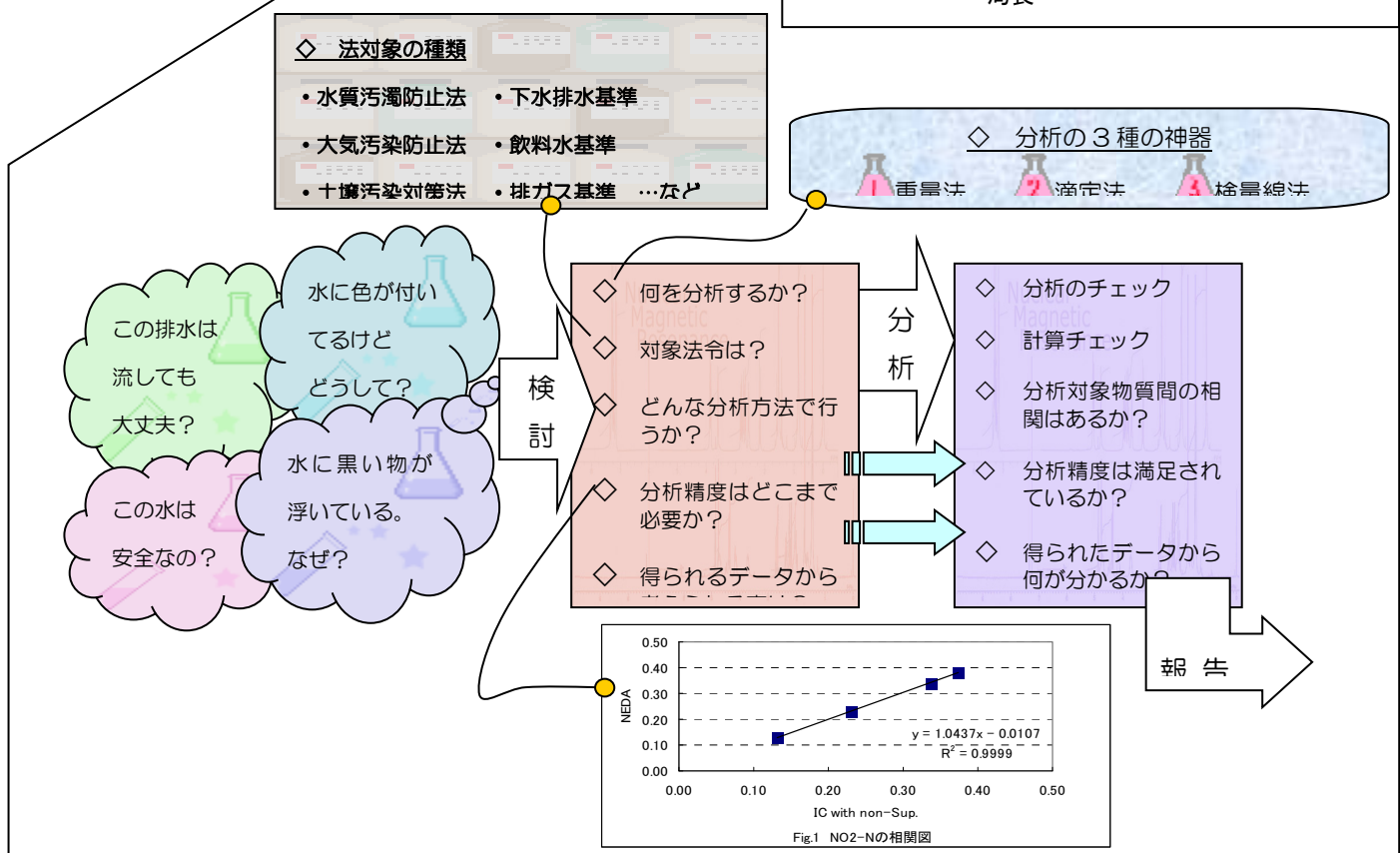


実際の分析は、左図を含む分析室にて行います。コンタミネーション防止のため、金属、VOC 等の Gr.によって部屋が分かれています。

例えば水の分析なら、下図のような流れで進みます。



**環境リスク対策ラボ  
生活環境試験サブユニット**  
常盤 加奈  
LEVEL: 勤続5年  
HP: 社内の癒し系  
MP: 偏食大魔王  
特殊能力: 社内フットサルチームの事務局長



排水等の水質分析は、重量法、滴定法、検量線法によって行われます。学生実験との違いは、未知の試料を分析し測定値を保証することです。自分が測定した試料を別の人が別の日に再度測定し、標準誤差±10%に入るでしょうか。

当社は、小さいラボながらも特に精度を重視しており、分析機器のブランクデータや検量線データの蓄積、同一試料間の測定誤差のチェックなど定期的に精度確認を行っています。その象徴としてISO17025の試験所認定資格を取得しました。精度を持ったデータを提供するのが私たちの仕事です。

GBP 編集委員会 チーム A の初めての編集を終えました。筆者を含め若い集団ですので、幾分寛大な気持ちでお読みいただければと思います。

毎年、3月には忙しいものです。年度の仕事を一生懸命やり遂げ、最終報告書を納品した時は、学校を卒業した感覚になります。そして、次の仕事に取り組む。…そんな気持ちを持って4月を迎えたいものですね。  
(川村 功一)

発行 **グリーンブルー株式会社**  
URL: <http://www.greenblue.co.jp/>

横浜本社 〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-14-12  
Tel.045-322-1011 Fax.045-322-3133  
東京本社 〒144-0033 東京都大田区東糞谷 5-4-11  
Tel.03-3745-1411 Fax.03-3745-1413  
編集人 堀江宥治